

第3章

幸田から全国へ 世界へ 【産業振興】

- 
- 1 農業者がいきいきと働いている。 42
 - 2 ものづくり産業が成長し続けている。 44
 - 3 お店がにぎわっている。 46
 - 4 観光で訪れた人が楽しんでいる。 48

第3章

幸田から全国へ世界へ

まちのあるべき姿

1 農業者がいきいきと働いている。



なぜそうあるべき？

日本には、降りそそぐ太陽、豊かな水、肥よくな大地があります。まさに恵まれた資源であり、本町においても同様です。この資源を十分に活かすことができるのは、農業をおいてほかにはありません。先人の努力によって整備された農地や農業環境を継承して有効に活用することは、自然を含む地域の環境を維持し、安全な食の確保につながります。

しかし、近年では、竹林の拡大や鳥獣被害など、農地に影響が出てきています。農業施設においては、用水管の埋設された農道が生活道路化することによる管路への影響や、農業用水施設の老朽化も問題です。大雨から農業を守る排水機場は、都市化した住宅街も守り、まさに住民の生命と財産を守る要ですが、設置後30年以上が経過しており、大規模な改修が必要です。

農業従事者の高齢化や後継者不足は、担い手の減少につながり、それに伴う耕作放棄地の増大は、周辺営農へ悪影響を与えるとともに、農地による雨水の貯留や地下浸透といった多面的機能を損なうことになります。

これからの農業を支えていく人たちが、いきいきと農業を続けられるために、農業環境の保全や生産性の向上はもちろん、安全・安心な農作物や農業の魅力の発信に努めます。



農業の振興

主要な取組		担い手の育成・確保 農地の保全 生産性の向上 農作物の付加価値 生産基盤の整備
主な役割	行政	農業の魅力を伝える。 新規就農者を支援する。 農地を保全する。 生産性を高める。 農作物の価値を高める。 生産基盤を整備する。
	住民	農業への理解を深める。 地元の作物を選ぶ。
	事業者	農業の魅力を伝える。 持続可能な農業を追求する。 生産基盤を整備する。



関連する主な計画

- ・ 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
- ・ 人・農地プラン
- ・ 幸田農業振興地域整備計画（H26～H30）
- ・ 第2次幸田町食育推進計画（H25～H28）

主な担当部課
環境経済部 産業振興課

基本構想

基本計画

第1章
安全・安心

第2章
環境

第3章
産業振興

第4章
健康・福祉

第5章
教育・文化

第6章
協働・参画

第3章

幸田から全国へ世界へ

まちのあるべき姿

2 ものづくり産業が成長し続けている。

なぜそうあるべき？

自動車関連産業を始め、世界的なものづくり拠点である西三河地域。その一端を担う本町は、昭和20年代の繊維産業に始まり、昭和40年代から進められた企業誘致により、現在、多数の優良な企業が活動し、地域に根付いています。

今後も本町が持続可能なまちをめざすためには、自立的な発展が不可欠であり、本町の財政に寄与し住民の暮らしを向上させるものづくり産業の積極的な振興策が必要です。

そのため、企業、金融機関、大学等との連携により、本地域のものづくり技術を活かした新産業の創生を推進していきます。

また、名豊道路といった物流ネットワークの利便性を活かした産業集積により、国際競争力を高め、海外市場への展開も見据えた企業立地を進めます。



新産業の創生

主要な取組			産金学官連携の推進 ものづくり人材の育成
主な役割	行 政		産金学官連携による開発・研究を支援する。 次世代産業を担う人材育成を支援する。
	住 民		ものづくりに関心をもつ。
	事業者		産金学官連携による開発・研究を推進する。 次世代産業を担う人材を育成する。

企業の立地

主要な取組			企業の誘致 企業の留置
主な役割	行 政		拡大工業地区の整備を推進する。 企業の活動・立地を支援する。
	住 民		企業の活動・立地に協力する。
	事業者		地域の活動に協力する。 安定的な雇用に努める。



関連する主な計画

・幸田町企業立地マスタープラン

主な担当部課

企 画 部 企業立地課

基本構想

基本計画

第1章
安全・安心

第2章
環境

第3章
産業振興

第4章
健康・福祉

第5章
教育・文化

第6章
協働・参画

第3章

幸田から全国へ世界へ

まちのあるべき姿

3 お店がにぎわっている。

なぜそうあるべき？

住民が安心して楽しく買物ができる商業拠点の形成が望まれています。「まちの顔」ともいうべき3駅周辺において、にぎわいを創出し活性化を促進することが、まち全体の活気につながると考えられます。そのためにも、まちなみの整備などハード面の充実を図るとともに、集客を目的とした各種イベントの開催や商店の共同事業・貸店舗事業、消費者ニーズに沿った経営改善の推進などソフト面の充実も図り、購買力の向上に努める必要があります。また、取組をより効果的なものとするため、店舗や商工会、行政の連携の強化に努めます。

大型店舗は、災害時における物資等の調達に関する協定を結ぶなどしており、日常の買物の場所としてだけでなく、企業の社会的責任として地域への貢献が期待されています。



商業の振興

主要な取組			商業拠点・経営の活性化 町内での購買促進
主な役割	行政		安定経営を支援する。 商業拠点を支援する。
	住民		町内で買物をする。
	事業者		地域に根ざしたイベントを開催する。



主な担当部課
環境経済部 産業振興課

基本構想

基本計画

第1章
安全・安心

第2章
環境

第3章
産業振興

第4章
健康・福祉

第5章
教育・文化

第6章
協働・参画

第3章

幸田から全国へ世界へ

まちのあるべき姿

4 観光で訪れた人が楽しんでいる。



なぜそうあるべき？

本町には、豊かな自然や特産物、歴史的な史跡があり、代表的な観光資源としては、大井池、道の駅筆柿の里・幸田や本光寺があります。自然と身近にふれあえる不動ヶ滝園地は、町外からの利用者も多く、冬季以外の土日はとても盛況です。また、施設観光のほかに、春の「幸田しだれ桜まつり」、夏の「あじさいまつり」、「幸田彦左まつり」、「こうた夏まつり」、秋の「こうた産業まつり」、冬の「こうた風揚げまつり」といった幸田を代表するイベント観光は、来て、見て、楽しんでもらえるものとして定着しています。

名豊道路の整備により、名古屋や豊橋方面から本町への交通の便が良くなってきているため、施設観光やイベント観光によって、さらににぎわいを生み、活力あるまちにしなければなりません。

今後は、近隣市との連携や情報発信に力を入れ誘客を進めますが、行政だけでなく地元や地域との協力体制の強化も必要です。



観光の振興

主要な取組		観光施設の整備・利用促進 観光拠点の広域連携
主な役割	行政	観光となるイベントを開催する。 観光を啓発する。 観光地を整備する。 近隣市と連携する。
	住民	おもてなしの心で観光客を迎える。
	事業者	観光施設への集客に努める。



主な担当部課
環境経済部 産業振興課

基本構想

基本計画

第1章
安全・安心

第2章
環境

第3章
産業振興

第4章
健康・福祉

第5章
教育・文化

第6章
協働・参画

モテモテ!?! 幸田町

